

第2部 真の感性を高める

リペラルアーツ実践一応用編

ビジネス・ブレークスルー大学大学院 教授
明治大学大学院 兼任講師
株式会社タイムズコア 代表

川上真史

感性を高めるための第一歩～対人的な感性～

自己スキーマ

自分とは絶対にこういう人間であると、根拠なく
思い込んでいる部分

他者スキーマ

あの人は絶対にこういう人間であると、根拠なく
思い込んでいる部分

相手に対する他者スキーマを作らないで耐えられることが、
人を見る目の基本。

一度スキーマを作ると、それに合うことだけを記憶に留め、
合わないことは無意識のうちに無視してしまう。

「感性」とは

ものごとを深く知覚する力



そこから善悪や美醜などを判断する力



その判断を他者とも共有できる力

2つの知覚

直観

明確な理由なく、とにかくこうだと認識する



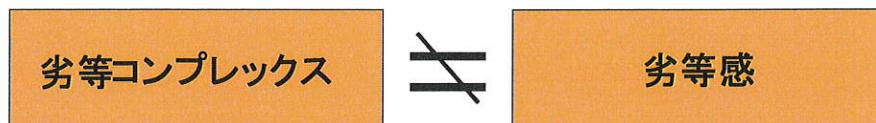
感覚

感覚器による観察、データによる測定など
によって、正確に事実ベースで認識する

直観～言語連想～

評価	
母親	
学校	
仕事	
怒り	

直観をゆがめるコンプレックス



コンプレックス＝
自分に関して、見たくないこと、思い出したくないことを
無意識下に抑え込んだもの

コンプレックスに基づく反応

同一視

「自分自身もやればできる」「やっていないだけだ」と
思い込む

反動形成

できないことなどについて、「そんなことやっても意味が
ない」「価値がない」と思い込む

投影

「自分自身こんなことができないのは、あの人のせいだ」
「このような状況のせいだ」と思い込む

直観と感覚

現在の日本の20代はどちらの傾向が強いか？

柔軟な意思

堅固な意思

客観的な判断重視

主観的な判断重視

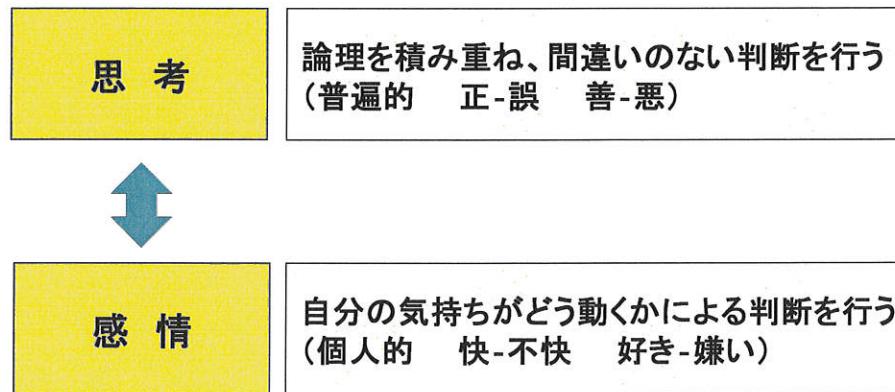
他律的な判断重視

自律的な判断重視

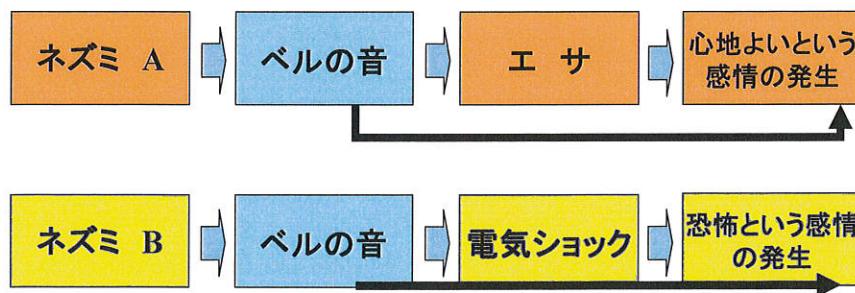
外的報酬重視

内的報酬重視

2つの判断



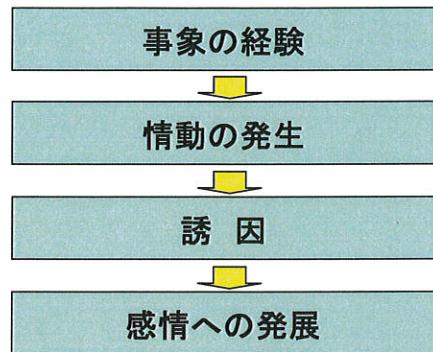
思考をゆがめる条件付け



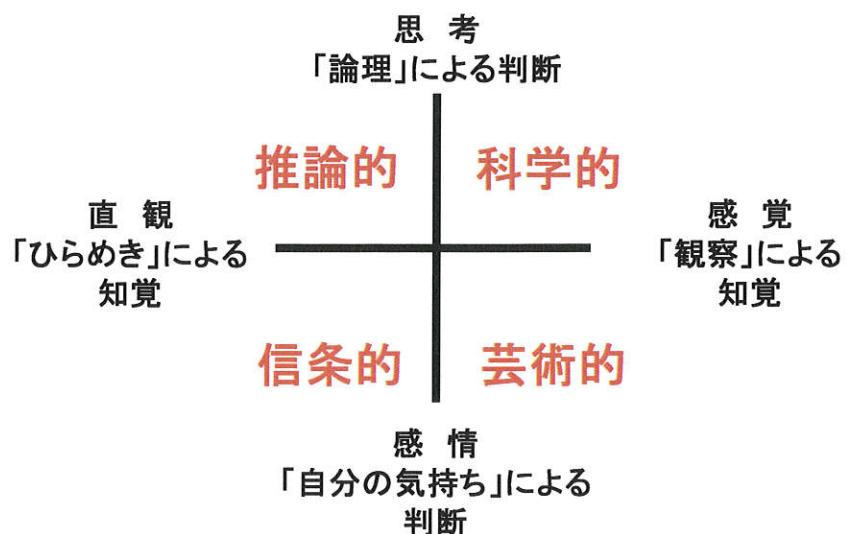
人間は、「悲しいから泣くのではなく、泣くから悲しい。」

人間は、「頭にきたから怒るのではなく、怒るから頭にくる。」

なぜ感情に個人差が出るのか



真の感性とは



4つの視点による知覚・判断 事例

今から見ていただく4つの絵の中で、年末に最も売れそうなものをひとつ選んでください。

その際に、グループの中で、思考、感情、直観、感覚の担当を決め、自分の担当領域で知覚、判断した内容をお互いに説明し、最終結論を出してください。

まずは、「直観と思考」のお二人と、「感覚と感情」のお二人に分かれて議論し、次に「直観と感情」「感覚と思考」で議論してください。

そのうえで、4人で議論し、最終結論を出してください。

絵画 ①



絵画 ②



絵画 ③



絵画 ④



各領域が有効なとき

思 考

多くの人に対する、根拠ある納得が求められるとき

感 情

他者への心情的配慮が必要なとき

感 覚

事実や正解が存在しているとき

直 観

正解がなくきわめて複雑な判断が求められるとき

各領域を高めるために

思 考	メタ認知力の向上
感 情	共感能力の向上
感 覚	比較力の向上、統計の理解
直 観	多くの経験、コンプレックスの解決

感性とパーソナリティの安定 ~Big 5理論~

外向性	周囲の状況に関心を持ち、外向きに活動しようとする傾向
調和性	他者に関心を持ち、他者と融合しようとする傾向
誠実性	自身の言動に責任を持ち、公平、公正であろうとする傾向
開放性	新しいことに興味関心を持ち、受け入れようとする傾向
情緒安定性	心の状態が常に安定し、明るく前向きでいようとする傾向

Big5 と感性

外向性	社会と関わろうとする 基本的傾向
調和性	共感的感情理解
誠実性	正確な感覚
開放性	前向きな論理的思考
情緒安定性	安定した直観

Big5 のディレールメント(脱線)

大きく欠落	大きく欠落	過剰に強すぎ
外向性	引きこもり・自己卑下	自信過剰
調和性	自己中心	他者依存
誠実性	逸 脱	硬直した固さ
開放性	停 滞	散 漫
情緒安定性	過 敏	鈍 麻